玉 のかたちを造った 「明治という時代」 費用や全体の合意の困難さか

ら30年代にかけて、コンクリ

都を走ることとなった。

南禅寺近くで勢いよ

業を興すことができた。

明治の日本はこうした国土

(京都電気鉄道)

保して開発と定住を促し、

電によって製糸業などの新産

ートブロックによる防波堤の

業の生産性にも寄与したこと 処するための事業に切り替え ていった。この河川改修は水 水事業を淀川・利根川・信濃 害被害の防止のみならず、農 川・木曽川・北上川・阿賀野 !整備によって舟運が衰える !のため、河道を整備する低 の直轄事業等により実施し 信濃川は明治以降に本格的 などを対象に行ったが、鉄 いくこととした。当初は舟 高水事業という洪水に対

大河津分水路と可動堰(出典:北陸地方整備

分水事業の提案はあったが

がなかなか引かない状態だっ 易に氾濫するうえ、溢れた水 であったし、洪水があると容 ていた。田は深い湿田の状態 い土地がかなりの面積を占め

に低湿地で、川の水面より低

一較的新しい時代に陸地化し

わが国、

局ホームページ)

日本海

全長22年以

ある瀬田川の掘削や洗堰の設 淀川への琵琶湖からの出口で く 横浜港を近代化するなど

明治用水、猪苗代湖から導水 ヶ原用水などの事業が有名 取水による那須疏水、那須野 を引いて碧海台地を開発した 業が実施された。矢作川の水 なり、各地で大規模な用水車 る広域的な台地開発が可能と した安積疏水、那珂川からの 、規模な開発であった。 それぞれ数千粉にも及ぶ

朔朗を設計監督として事業に 成。この電力を用いて日本初 着手し、第一疏水は90年に完 退から救う一大事業だった。 遷都を機に減り始め、江戸時 大学を卒業したばかりの田邊 【の約半分になり、京都を衰 1885年 (明治18年)、 国土と日本人 _____ 災害大国の生き方 大石久和著



は今、何を考える べきか、に気づくことの

発行:中央公論新社 定価:882円(本体840円)

国土への働きかけの歴史⑥

島保全への課題

力がされなかったわけではな それまでも港湾に対する努 ら手がつけられなかった。 地には、水源が乏しいことか

阿賀野川が運ぶ土砂により

る。越後平野は、信濃川や

に治水事業が行われた河川

明治になって大型工事によ 育森3県の死者や流失家屋



ع

「すべて」と 三陸海嘯横死 象徴的な教訓 者招魂碑

昭和八年津浪 記念碑 ヲタテルナ

の碑文が教訓を伝える。 べて」と刻まれた残る1基 発生当初から津波の来襲 、ヂシンガシタラバユダ の被災記録を記す。「 参ね上らまし 雄心もて以左追ひ進み 八津波く ^ 里てめけぬ 裏面には地震 英彦

ヲヨウイシテオケ カイトコロニアガレ イトコロニアヅマレ 、チカクノタカイトコロ 、ヂシンガアッタラタカ 、ツナミニオハレタラタ

参考:国土交通省東北地方

画された。京都の人口は東京

水による発電・水運・水道な

京都でも、琵琶湖からの道

こを目的とする疏水事業が計

他にも木曽三川の完全分離 の洪水で大破し、改めて31年 っていったのである。 て、越後平野は米どころとな の後のいくつかの曲折も経 に可動堰として完成した。そ 津分水工事が始められたが、 空前の大出水を契機に、大河 1927年(昭和2年)6月 7の「横田切れ」といわれる 明治以降の治水には、その 1896年 (明治29年) 7 実現してこなかった。 に及ぶ荒川放水路の事業など 国土への働きかけの基礎と

う考え方を背景に港湾法が整 和25年)にようやくアメリカ 2年)に運河法、19年に道路 規は、1896年 (明治29年) のポート・オーソリティとい 定されたのは戦後で、50年(昭 に河川法、1913年(大正 なる社会資本に関する個別法 港湾に関する法律が制 それぞれ成立した。し 産向し

の開発を行い、堆積平野の中 発である。江戸時代まではも 防波堤の復旧にわずか9カ 関東大震災後、驚異的なスピ 国にも建設技術が蓄積され っぱら沖積平野や湖沼の周辺 触れておきたいのは台地の開 カ月といった記録も残る。 でも行われた。その後、わが ドで横浜港の復旧を図り、 明治になってからの事業で 繋船岸の復旧にわずか19 く水が流れる疏水を見ること

> ら現代への贈り物である。 える国土造りであり、

らの事跡は江戸の事業ととも

に今日の私たちにも恵みを与

の歩みを進めていった。これ 造りによって近代的な国家へ

くりだしている様子をみるた の水路が美しい水辺風景をつ ができるが、千年の都に明治

びに、明治人の国土にかけた 情熱を感じる。これらの事業 により、農業用水や上水を確 碑

の記憶(4)

数が刻まれている。

他の2

基は昭和8年の昭和1

3基の碑 岩手県田野畑村島越

8年の昭和三陸地震津波の 記念碑など3基が並んで立 治三陸地震津波に際し同31 つ。古い碑は明治29年の明 岩手県田野畑村島越

キチヨリヒクイトコロニ家 、オカミノサダメタヤシ

整備局道路部ホームページ 津波被害・津波石碑情報